

「つながり」から育つ未来へ

「赤ちゃんがお母さんを見るとき、2つのものを見ている。お母さんの瞳と、自分を見つめている母親とを」

—D・W・ウィニコットのこの言葉は、私たちの養育のあり方を深く表しています。

子どもは、大人のまなざしを通して、自分という存在を感じ取り、安心と信頼の土台を築いていきます。

では、私たち大人はどうでしょう？

「子どもを支える自分自身も、安心して育っているだろうか？」

「職員同士がつながり、支え合い、学び合える環境があるだろうか？」

私たちは、子どもの育ちと同じように、大人の“育ち”や“つながり”も大切にしたいと考えています。

子どもを支えるには、まず支える大人が「つながっている」と感じられることが必要です。

当施設では、対話を土台にした組織づくりを進めています。日々のフィードバックや学びの時間を大切に、一人ひとりの職員が安心して自分の想いを語り、専門性を育てていける風土をつくっています。経験の有無に関わらず、「子どもとともに、自分も育ちたい」と願う方に、ぜひ仲間になっていただきたいと思っています。

子ども、職員、保護者、地域—誰かが孤立することなく、互いのまなざしが交差する場所。

この施設が、そんな“つながり”の拠点となれるよう、これからも丁寧に歩みを進めてまいります。

広島乳児院 兼光 一之